

第115回通常総会を開催

本年五月二三日、石川裕己海上保安庁長官を来賓にお迎えし、東京の海運ビルで第

一一五回通常総会が開催され、平成一八年度の事業報告と収支決算、平成一九年度の事業計画と収支予算などの議案が付議され、承認されました。



石川裕己海上保安庁長官の祝辞

社団法人日本水難救済会の第115回通常総会が無事終了したことに對しまして、先ずお喜び申し上げます

貴会におかれましては、明治二二年の創設以来、崇高なボランティア精神に基づく水難救済活動を百余年の長きにわたり展開され、これまで数多くの人命や船舶を救助するなど、輝かしい歴史と伝統を築き上げられてきました。

また、洋上救急事業につきましても、昭和六〇年の運用開始から通算の出動件数が六二〇件を数えるなど洋上における救急救命に大きな役割を果たしており、内外からも非常に高い評価を受けているところであります。

これも一重に、全国各地で、日夜、海難や急患発生の際に接するや自己犠牲の精神をもって海難救助や洋上救急業務に従事していただいている救難所員や医師・看護師の皆様、更には中央や地方において、これら支援に当たっておられる関係者の皆様のご理解・ご協力の賜物と考えており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、総会後には、関係者の皆様のご功労を讃える機会として、高円宮憲仁親王妃久子殿下のご光臨を賜り、名誉総裁表彰式典が開催されることは、私共にとりまして

も大きな喜びでございます。

実は、本年四月中旬、沖縄で潮干狩り客一三名が天候の急変により孤立し、内八名を地元の救難所が救助するという事例が発生しております。残念ながら二名の方につきましては救助の甲斐なく亡くなられておりますが、救難所の迅速な救助活動がなければ更に被害が拡大していたことは確かのところであり、改めて水難救済活動の重要性を再認識した次第であります。

海上保安庁といたしましても、貴会を中心とした水難救済体制の更なる充実・発展のため、今後とも可能な限りの支援・協力を行って参るとともに、緊密な連携の下、海上における尊い人命、財産の救助に万全を期して行く所存であります。

最後になりましたが、全国各地でボランティア活動として、人命救助という崇高な使命のもと、ご活躍されている救難所員や医師・看護師の皆様、更には、日本水難救済会の活動にご支援・ご協力を頂いている関係者の皆様方のご健勝と日本水難救済会の益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。